

暴力をふるわない男性達よ、声をあげよう。
—ホワイトリボンキャンペーン—

男女共同参画通信

November.2016
©Kyoto City

Vol. 43



▶ 京都市からのお知らせ

京都市のドメスティック・バイオレンス (DV) 相談窓口について ～ ひとりで悩まないで相談してください～

京都市では、DV (※) 被害者の支援のため、様々な相談窓口を開設しています。

※DV・・・配偶者（事実婚・元配偶者を含む。）や恋人など親密な関係にある男女間における暴力

◆ 京都市DV相談支援センター ◆

女性被害者からの相談から自立生活の促進まで、DV被害女性への継続的な支援に重点的に取り組んでいます。御相談にあたっては、プライバシーに配慮し、秘密は厳守します。お気軽に御相談ください。

【相談受付時間】 月～土曜日 午前9時～午後5時15分

※祝日・12月29日～1月3日を除く

【相談電話番号】 075-874-4971 (DVよくない)

【緊急ホットライン】 075-874-7051

(相談受付時間外はこちらの電話番号へ)

◆ 「ウィングス京都」での女性への暴力相談 (面接) ◆

DVやセクシュアル・ハラスメント、ストーカー等の女性への暴力の問題に女性カウンセラーが助言します。右記の開室時間内に、まずは電話でお問い合わせください。

【相談受付時間】 月・木・金・土曜日

午前11時～午後6時30分

(受付は午後6時まで)

火曜日 午前11時～午後8時

(受付は午後7時30分まで)

※祝日・12月29日～1月3日を除く

【受付電話番号】 075-212-7830

◆ 男性のためのDV電話相談 ◆

DVに悩んでおられる男性を対象に男性カウンセラーがお話をうかがいます。

【相談受付時間】 毎月第2・第4火曜日

午後7時～午後9時

(受付は午後8時30分まで)

※祝日・12月29日～1月3日を除く

【相談電話番号】 075-277-1326

女性に対する暴力をなくす運動

女性に対する暴力をなくす運動は、国の提唱により、毎年11月12日から25日までの2週間を期間として定められています。京都市では、この期間に合わせて、様々な啓発等を行っています。



パープルリボン（「女性に対する暴力をなくす運動」のシンボル）



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク



京都タワーライトアップの様子

<発行>

京都市文化市民局共同参画社会推進部男女共同参画推進課
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町 488 番地
TEL : 075-222-3091 FAX : 075-222-3223
<http://www.city.kyoto.lg.jp/menu1/category/18-0-0-0-0-0-0-0.html>

<企画・編集>

公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262 番地
TEL : 075-212-7490 FAX : 075-212-7460
<http://www.wings-kyoto.jp>

この印刷物は、不要になりましたら「雑がみ」としてリサイクルできます。
コミュニティ回収や古紙回収等にお出ください。

平成 28 年 11 月発行 京都市印刷物 第 284660 号



暴力をふるわない男性達よ、声をあげよう。

—ホワイトトリボンキャンペーン—

世の中に、ホワイトトリボンを冠するキャンペーンはいくつかありますが、その中のひとつに、男性から女性への暴力をなくすためのホワイトトリボンキャンペーン(WRC)があることを御存知ですか。その大きな特徴は、暴力を振るわない男性たちが主体となつて取り組む国際的なキャンペーンという点にあります。

日本では2001年に配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律が制定され、女性への暴力撲滅への取組が続けられています。女性へのドメスティック・バイオレンス(DV)が人権問題であると認識されはじめたのは、1990年代からです。また、国連が「女性に対する暴力の撤廃に関する宣

言」を採択したのは1993年のことです。

このような中で、WRCの運動は、1991年にカナダで、「女性への暴力反対に賛同する男性は、ホワイトトリボンを身に着けよう」との提唱に10万人もの男性が賛同し、ホワイトトリボンに身に着けたことから始まりまし

た。今では、世界60箇国以上にも広がる、国際的な啓発運動となつており、オーストラリアやニュージーランドをはじめとするオセアニア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、中東、ロシア、アジアなど、多くの国と地域に広がっています。

もちろん、これまでも女性への暴力をなくすための啓発活動が行われてきましたが、その取

り方では、1990年代からです。また、国連が「女性に対する暴力の撤廃に関する宣言」を採択したのは1993年のことです。



ののではないでしょう。このWRCは、男性たちが問題の存在を認識し、「暴力の加害」について

目を向け、男性の問題としての運動を自らの手で主流化していく、今までにない視点の転換であり、男性がDV防止活動に積極的に参加する機運をもたらすものです。

日本でも、2012年に神戸で産声をあげたホワイトトリボンキャンペーン・KANSAI(WRC)が「非暴力系男子」「フェアメン」という二つのキーワードを掲げ、暴力を振るわない男性はカッコいいというメッセージを発信してきました。こうした取組は、2015年7月、一般社団法人ホワイトトリボンキャンペーン・ジャパン(WRCJ)設立と

組の多くは、被害女性への支援を行うという視点で展開されてきました。しかし、DVとは、

親密な関係の男女の間で起こる暴力のこと。つまり本来は、女性だけではなく、男性の問題でもあります。この啓発方法では、世の中の多数派である、暴力を振るわない男性にとつて、「自分は暴力を振るわないからそれでよし。自分には直接関係がない。」と、なかなか自分のこととして捉えにくい側面がありました。そのうえ、加害者＝男性という枠組みのなかで語られると、自分は加害者ではないのに、男性であるというだけで、なんとなく自分が責められているような、居心地の悪さを感じた人もいる

「さ」への捕らわれが影響しているといえるでしょう。今後は、こうした加害側の男性への対策を進めるとともに、暴力の連鎖を止めるため、子どもへの教育プログラムなどを開発、提供していく必要があります。

暴力を振るう側と振るわれる側、加害男性と被害女性といったような、二極化の構図からDVを捉えるのではなく、多くの加害者と同性である男性自身が、それはNOだ、と発信することが、

男性を主体とした啓発活動へとつながり、女性への暴力の問題を男性と女性が一緒に考え、問題の解決に取り組むきっかけになることでしょうか。

男性と女性が一丸となって、女性への暴力をなくしていきたいですね。

